

真理の翼【80 回生】

兵庫県立神戸高等学校 進路指導部

2 年生になってから 3 か月ほどが経ちました。中間考査までの慌ただしい時期に比べ、今月は比較的落ち着いて学習に取り組める時期だったのではないのでしょうか。2 年生では文系・理系に大きく分かれ、各教科の内容もますます専門的になっています。中間考査の結果も踏まえ、今一度自分の学習への取り組みを見つめ直し、期末考査に全力で挑みましょう。

さて、皆さんはきちんと「計画」を立てて日々の学習に取り組むことができているのでしょうか。部活動やその他の活動で忙しい今だからこそ、計画的に効率よく学習に取り組まなければなりません。「計画」においては高い目標を掲げることも大切ですが、それと同じくらい重要なのは、立てた計画を「やり切ること」、そして「計画→達成」のサイクルを「習慣化」することです。あらゆる学問の基礎を築き「万学の祖」とも呼ばれる古代ギリシャの哲学者アリストテレスは、「**我々は繰り返し行うことによって形成される。それゆえ、卓越性は行動ではなく習慣である (We are what we repeatedly do. Excellence, then, is not an act, but a habit.)**」と述べています。これは、一時的な行動の良し悪しではなく、日々の習慣こそが重要であるということだと思います。計画を立てるのが苦手な人の中には、最初から無理な計画を立て、結局達成できずに終わってしまうというパターンも見受けられます。しかし、達成可能な目標を設定し、それを確実にやり切る「計画→達成」のサイクルを継続して回し続けることが、着実な力の向上につながります。

そのためには、まず現状の自分の力を正しく把握することが大切です。できることとできていないことを整理し、小さな目標を積み重ねていきましょう。また、計画通りにいかなかった場合も、その原因を振り返り、次の計画に生かしていく姿勢が重要です。1 学期が終わると、夏休みに入りますが、時間はあっという間に過ぎていきます。計画的に学習やその他の活動に取り組み、充実した時間にしてください。

【本校での進路関係行事のお知らせ】

本校では、進路に関するさまざまな説明会や研修会を計画しています。いずれも生徒とともに保護者の方も対象です。ぜひご参加いただき、進路についてともに考えるきっかけにしてください。

I. 神戸大学 文学部・国際人間科学部合同説明会 (7/15(水)15:40~17:00) 申込〆切 7/2(木)

講師：神戸大学文学部教授 真下 裕之 氏 神戸大学国際人間科学部教授 村尾 元 氏

内容：神戸大学文文学部と入試制度について、文学部・国際人間科学部についての説明。

II. 医学部医学科説明会 (7/9(木)14:00~15:20) 申込〆切 7/1(水)

講師：河合塾教育サポート本部 亀井 昇 氏 テーマ：医学科現役合格をめざして

【外部模試について】

実施日	模試名	実施場所	申し込み方法・締切
8/9(日)	代ゼミ第 1 回全国高 1 共通テスト模試	神戸大学 深江キャンパス	online 申込(〜7/31)
8/16(日)	河合第 2 回全統高 2 模試 (記述)	公開会場	online 申込 (〜8/7)
9/20(日)	代ゼミ第 1 回全国高 1 共通テスト模試	代々木ゼミナール大阪南校	online 申込(〜9/11)
10/4(日)	駿台第 2 回高 1 全国模試	公開会場	進路指導室前 Box に 申込書提出(〜9/1)

※駿台 tatama 模試 各自 online で申込

〈保護者の方々にも読んでいただきましょう〉

[オープンキャンパスに行こう！]※詳細は必ずHPで確認してください。

オープンキャンパスでは、大学についての説明や相談、学生と関われる企画などに参加でき、実際に大学の環境や雰囲気を感じ、通学の便も考えることが出来ます。2年生で時間に余裕があるうちに以下の大学をはじめ、HP等で調べて遠方の大学にも是非一度足を運んでみましょう。

東京大学（オンライン開催・参加登録システム OCAAns への登録が必要）

日時・内容：8月3日(月)・4日(火)10:00～18:00

大学・学部説明会、模擬講義等のライブ配信・収録映像配信、オンライン質問会・相談会など

参加登録期間：7/1(水)17:00よりOCAAnsへのアクセス可能

事前申し込みが必要な企画への登録開始は7/8(水)17:00～

※事前申し込みが必要な企画と不要な企画がある。

**京都大学（直接来場自由参加可能・申込み必要なプログラムあり）**

日時・内容：

8月6日(木) 総合人間学部、文学部、医学部（医学科、人間健康科学科）
薬学部、農学部、（理学部 online）、全学共通企画

8月7日(金) 教育学部、法学部、経済学部、理学部、工学部、全学共通企画
キャンパスツアー、校内施設見学など

事前申し込み必要プログラム：申込終了(残席先着順受付 6/26(金)16:00～)

※定員のあるものについては、事前申し込みが必要。

**大阪大学（来場型・オンライン型・事前エントリー必要なプログラムあり）**

実施日時：多くは8月上旬～中旬(学部によって異なる)

学部説明、研究室訪問・相談会、模擬講義、学生生活相談、

受験相談、留学セミナー、在学生スピーチ、装置見学など

事前エントリー：7月上旬～中旬(学部によって異なる。人間科学部の来場型受付は終了)

※予約制プログラム（「マイページ」の作成が必要）と予約不要のプログラムがある。

**神戸大学（主に対面型・「マイページ」の作成が必要）**

学部	開催部	申込受付期間
8/6(木)	医学部保健学科 (看護学専攻・作業療法学専攻)	7月5日 10:00 ～ 7月24日 23:59 (先着)
8/7(金)	文学部	7月5日 9:00 ～ 7月31日 23:59 (先着)
	法学部	7月5日 9:00 ～ 7月31日 17:00 (先着)
	経済学部	7月5日 8:00 ～ 7月31日 17:00 (先着)
	医学部医学科	7月2日 6:00 ～ 7月15日 12:00 (先着)
	医学部保健学科 (検査技術科学専攻・理学療法学専攻)	7月5日 10:00 ～ 7月24日 23:59 (先着)
	医学部医療創成工学科	7月1日 17:00 ～ 8月4日 17:00 (先着)
	工学部	7月13日 10:00 ～ 7月20日 23:59 (抽選)
	システム情報学部	7月13日 10:00 ～ 7月20日 23:59 (抽選)
	農学部	7月3日 12:00 ～ 7月10日 12:00 (抽選)
8/8(土)	海洋政策科学部	7月5日 9:00 ～ 7月28日 23:59 (先着) ※申し込みなしで参加できるプログラムあり
	国際人間科学部	7月21日 20:00 ～ 8月7日 17:00 (先着)
8/10(月)	経営学部	7月5日 8:00 ～ 7月31日 17:00 (先着)
	理学部	7月6日 7:00 ～ 7月31日 23:59 (先着)

※内容は、学部学科の概要・講演会・入試説明会・相談会・模擬授業・

受験学生生活体験談・施設設備の見学・ポスター展示・その他

※オープンキャンパス当日は、抽選で当選した本人以外キャンパス内に入れない。

＜理系志望の女子向けオープンキャンパス＞ Zoomでのオンライン交流会

8月7日(金)：理・工・システム情報学部

10日(月)：海洋政策科学部

申込受付期間 7/4 9:00 ～ 8/6 23:59

※先着順



[大学入学共通テスト 出題の特徴パート 2]

前回の第 1 号では、大学入学共通テストの出題の特徴として文系科目を紹介しました。今回は理系科目を下にまとめています。

【数学Ⅰ・A】

大問 3 の空間図形で情報も多く、図形も複雑であったこと、大問 4 で問題文が長く、状況の把握が難しかったことで、問題全体としては難化した印象。とはいえ、昨年と比べると日常の事象を題材とする問題も減り、計算も煩雑なものは少なく、解きやすくなった部分もあった。

対策としては、やはり基本を確実に身に付けることである。教科書内で基礎レベルの問題であっても、少し問い方が違ったり、いつもは A から B を求めるところを、B から A を求めさせていたりする問題では、正答率が落ちる傾向にある。また、情報処理能力も高く求められている。共通テストでは細かい状況が設定され、その説明のための長い文章を読んで理解する力が必要とされる。状況さえ理解してしまえば計算そのものは簡単でも、問題の序盤でつまづいてしまうものも多い。早い段階から長い問題文の、状況設定の細かい問題などに触れる経験を増やすべきだろう。

【数学Ⅱ・B・C】

昨年度と同様、試験時間は 70 分、問題数は 7 題(1～3(数学Ⅱ分野)が必答、4～7(数学 B・C 分野)から 3 題選択)であった。数学Ⅱ分野においては、「複素数と方程式」、「指数関数・対数関数」からの出題はなかった。数学 C 分野の「平面上の曲線と複素数平面」においては、複素数平面を題材にし、平面上に描かれる図形が 2 次曲線というものになった。共通テスト形式の特徴である日常を題材とする問題は、大問 5「統計的な推測」で出題された。全体を通して全国平均は昨年度とあまり変わらず標準的な問題が多かった。対策問題集等で演習を重ねていれば十分に高得点を狙える構成となっているといえる。

「2 次試験の方が配点が多いから共通テストの対策はそこそこで良い」という生徒も時折見受けられるが、神戸高校生が多く受験する大学は共通テストの得点率も高い。高得点を取っていくためにはそれなりの対策は必要である。共通テストでは文章量が増え、思考力が問われる問題も多くなっている。2 次試験の対策が共通テストまで完全にカバー出来る訳ではない。共通テスト対策にもしっかり取り組んでいかなければならない。

【物理基礎】

50 点満点で、全国平均 36.4 点、78 回生平均 39.3 点であった。本試験の設問数は令和 4 年度 17 問、令和 5 年度 16 問、令和 6 年度 17 問、令和 7 年度は 15 問と推移してきたが、令和 8 年度は 14 問であった。全体的に見て、今年は、問題数も少なく平易な問題が多かった。小さなミスで問題を取りこぼすと、大きな差となってしまう。物理基礎は覚えなければならない公式はそれほど多くはないが、問題を解くときには、その物理的な意味をしっかりと考えながら取り組んでほしい。

【物理】

難易度は昨年度の全国平均(72.1 点)より -12.7 点(59.4 点)であり、難化した。「第 1 問 小問集合」、「第 2 問 力学」、「第 3 問 熱・波動」、「第 4 問 電磁気」で、昨年度と同じ構成である。大問数は変化なし。設問数、マーク数はともに減少した(設問数 -3、マーク数 -2)。問題分量は昨年と比較して減少している(問題ページ数 28 頁→23 頁)。目立った変化としては、例年出題されていた実験を題材とする大問が出題されなかった。また、イメージを通して直感的に解く定性的な問題がほぼ無くなった。基本的な原理や法則を用いて計算し正解を導いていく、理論計算が必要な問いが殆どであったため、時間がかかったようだ。

【化学基礎】

構成は、大問 2 題で全 13 問、大問[1](物質の構成と変化 10 問)、大問[2](物質の変化 3 問)。昨年度と比較してマーク数は昨年より 3 減って、16 となっている。全体を通じて基礎的な内容が出題されている。また計算問題も減少したため、全体として取り組みやすい出題となっている。

【化学】

新課程 2 年目も初年度と同様の大問構成と配点であった。ここ数年来、化学の平均点は理科の中で低い傾向であったが、昨年の過去最低点の反動で全国平均（入試センター最終）56.9 点とようやく少し是正された感がある。過去数年間は教科書に出てこない（つまり指導要領の範囲外の）物質や反応を題材とした思考力を問う出題が多数あったが、今年は合成高分子としてのポリイミドに関する出題ぐらいであった。正誤問題は比較的正解の選択肢がすぐに見つかる出題が多く、計算問題も公式にあてはめるだけで解けるものが大部分であった。そのため、本校の受験生の半数近くが 80 点以上をマークできた。とはいえ次の正答率の低い問題（ワースト 5）にあるように、理論がきちんと理解できていれば平易な問題を間違えた受験生も多くいて、かつ暗記が必要な分野の問題で失点がかさむと高得点が望めない。問題集の基本例題や基本問題の演習で徹底させること。また、次年度以降どのような出題傾向となるのか予測はできず、教科書にない物質や反応を題材とした思考力問題等への対策も講じる必要がある。

【生物基礎】

例年同様に 3 大問構成で幅広い分野から出題された。基本知識と考察力がバランスよく問われ、新型コロナウイルス感染症を題材にした身近な題材や初見資料の解釈などもあった。第 1 問は会話形式の問題が出題されたが、仮説検証や計算の問題は出題されなかった。一方で第 3 問では、初見情報を統合、考察する問題が出された。全体として読み取りは易しく昨年よりやや易化した。

共通テストでは、教科書に掲載されていない物質や実験、現象を題材にした問いが目立つ。しかし、こういった問題も特別な知識が必要ということはなく、基本事項を応用して取り組めばよい。教科書にある基本的な事項の確実な習得と、計算問題、グラフや図を使った問題など複合的に考える力の両方が必要である。多くの問題に触れ、初見の題材にも取り組める自信をつける必要がある。

【生物】

全国平均は、2022 年度・2023 年度と 50 点に満たなかったが、2024 年度によりやく 54.8 と易化、2025 年度も 52.2（最終集計）と昨年度並みであった。

今回の共通テストは、現行課程に対応した 2 回目の試験であり、大問数は 5 問でマーク数も 25 で変化なかった。文章量は昨年と同程度であるがページ数は 6 ページ増加しグラフや表が増えている。知識問題の割合がやや増加し、図表の読み取り問題や実験考察問題の割合がやや減少した。特に読み取らなければならない文章量が減少し、図や表に示された情報に基づいて選択肢を検証するだけで解答できるような考察問題が増加した。また、選択肢が 4～5 個の設問が増加し、選択肢が 6 個以上の設問は減少した。正誤の判断に迷うような紛らわしい選択肢もあまり見られなかった。大問中に複数の分野の設問を含む問題は減少し、A・B で分けた問題もなくなった。過去に出題された問題と大きく異なる新しいタイプの問題はなかった。

【情報】

2026 年度の第 1 問は、2025 年度と比べて出題傾向が変化し、専門知識が必要不可欠な問題が増えた。第 2 問以降は予想通りの難易度の問題であった。しかし、問題量は増えて、より速く解くことが求められるものであった。第 2 問はその場で考えて解ける問題で、第 3 問はプログラミング、第 4 問もその場で考えて解ける問題である。会話文がなくなったのも斬新であった。

全体を通して、第 1 問に専門用語の知識が必要な問題があり、そのせいでその後の問題にも影響が出てしまっているようである。ページ数も前回より増えていることから、より「解き慣れている」ことが要求される。ただし、基本は専門知識というより問題文を速く理解し、テンポよく解くことが重視されることには変わらない。今回は会話文の問題がなかったが、今後は会話文が出題される可能性は高いので、その対策も必要である。難易度そのものは（専門用語の問題を含めて）「易」レベルなので、いかに落ち着いて、でもテンポよく解き進められるかがポイントであろう。